

淀川水系流域委員会 第4回猪名川部会検討会(2003.6.18開催)結果概要

03.6.30 庶務作成

開催日時：2003年6月18日(水) 13:30~15:40
場 所：axビル 4階 アクスネット C・Dルーム
参加者数：委員8名

1 決定事項

- ・原案に対する部会としての意見とりまとめのために、田中委員をリーダーとして委員間で重点検討項目を分担して検討することとなった。各委員の担当は下記の通り。
 - 狭窄部(銀橋)の治水対策：田中委員、畚野委員
 - 余野川ダムの見直し案：池淵委員、本多委員、森下委員
 - 下流部分の事業(環境、治水、利用を総合的に)：細川委員、畑委員、松本委員、矢野委員
 - 一庫ダムの運用：池淵委員、本多委員、矢野委員
 - 追加すべき記述について(外来種対策、河川敷利用)：服部委員
 - 追加すべき記述について(土地利用誘導対策)：畑委員
- 注)欠席された委員(下線の委員)は、部会長とリーダーの指名で担当を決定した。
- ・次回の猪名川部会は7月1日(火)17:00~20:00に開催し、各委員の検討内容をふまえて河川管理者と質疑応答を行う。
- ・各委員は、役割分担に従い第2稿も精読した上で、河川管理者に次回部会(7/1)で回答または説明して欲しいことを6/25午前中までに庶務まで提出する。これをリーダーがまとめて河川管理者に事前に提出する。

2 検討内容

委員会、他部会の状況報告

今回の検討部会の開催経緯や位置づけについて説明があった後、資料1「委員会および各部会の状況(提言とりまとめ以降)」をもとに、他の地域別部会では意見とりまとめのために作業部会の設置や役割分担がなされたこと等について報告が行われた。

部会での検討事項およびスケジュール

資料2-1「今後の猪名川部会における検討について」をもとに、部会としての意見とりまとめに向けての検討項目やスケジュール、作業の分担などについて意見交換が行われ、上記「1. 決定事項」の通り決定した。主な意見交換については、「3 主な意見」を参照。

なお、7/14以降7月末までの間に部会検討会と併せて現地視察を一日で行う方向で検討し、次回部会で決定することとなった。

3 主な意見

部会での検討事項およびスケジュール

- ・施策の「検討」「見直し」について、住民、委員、河川管理者のイメージがそれぞれ違うのではないか。例えば見直しとなったときに計画案について住民や委員会、地方自治体の意見を聞く等のプロセスがあり、1、2年かけて案が決定されていく、ダムについては、社会的合意があった場合に「妥当と判断し」実施されるということだが、これらの一連のプロセスがこの説明資料（第1稿）に書かれている「検討」「見直し」の説明からは見えてこない。計画の見直し、決定、実施の流れを誰が見ても理解できるように図解するように求めたい。

一例として、具体的な整備内容シート（第1稿）のダム-1の検討手順には、学識経験者の意見を聞くプロセスが書かれている。（庶務）

- ・検討項目に利水が入っていないが、淀川の水を利用しているなど猪名川独自の問題があるので項目に入れてはどうか。

担当の分担について

- ・分担については、自分の専門外の、例えば堰の設計図等を見てもわからない。担当箇所を検討する際、例えば他部会の先生から情報を寄せてもらう等、どのように検討すればよいかを考えることも含めるとしてはどうか。
- ・担当項目を検討する際、個人で勉強できる範囲を超える部分が出てくると思うが、その場合専門家を呼んで意見を伺う等に庶務のバックアップをお願いできるのか。

まずは各委員で勉強していただき、限界を感じたら、部会でバックアップしていきたい。

（部会長）

その他

- ・堰についてだが、整備内容シートに書かれている堰の実施、検討時期がばらばらであり、2つつ組み合わせているがその系統性や順番の理由もわからない。
- ・河川管理者は、治水、利水に関しては専門家がいて必要な資料等も揃っているが、環境の専門家はいないので、このような委員会で専門家の意見を聞いている。しかし、河川法が改正され治水、利水、環境の3つを同等に考えるというなら、環境の専門家を採用し予算をつけることが根本的な解決法ではないか。このことを明確に提言した上で、現在はまだその専門家がいらないからということで、委員会で意見をいう、という姿勢をもつべき。
- ・狭窄部を当面は掘削しないということだが、下流部の整備が完成したら掘削するのか聞きたい。これは環境を考えるにあたって大きな問題である。

狭窄部の開削の記述については、第21回委員会資料3-2「余野川ダム計画の見直し案説明資料」の65ページに書かれている。（庶務）

- ・河川管理者は既往最大洪水ということの一つの基準にしているが、銀橋の狭窄部の場合、その既往最大洪水を年確率で計算すると二千年に1回位の確率になると聞いた。本当にそのような確率のものを基準にするのか、あるいはもう少し低いレベルから想定して住民と話し合い妥協点を見つけるのかで結果は全く違ってくる。
- ・ダムについて、何をもち社会的合意とするのか、について検討すべき。

以上

説明および発言内容は、随時変更する可能性があります。最新の結果概要はホームページに掲載しております。